

編集後記

五月の連休の谷間のことだった。

「春を探しにいこう」という生活科の授業で、団地の中を散策に行つた日、娘は後ろにひっくり返りそうになるほど重いリュックサックを背負って帰ってきた。

「おみやげ持ってきたんだよ!」と嬉しそうにその中身を出すと、何といくつもの大きな石が、ゴロゴロと出てきた。「これ、春の石だよ!」と娘はニコニコしている。「?」一瞬何のことだか分からないでいる私に「石がね、とつてもあったかかったんだよ。冬は石が冷たいでしょ。だから、これは春だと思って思つたの」。なるほど、納得。とともにそ

の発見にかなり感激した親バカな私。タンポポなどの草花は、摘んで持ち帰っても、しぼんでしまふからとのことだった。「でもね、みんなが、ただの石じゃんって言った」と少し、しょげてもいた。

家族からは口々に「大発見!」と言われても、学校向きではないと悟つてか、その日のことを書く宿題の作文には「タンポポやチューリップが咲いていました」と当たり障りのないことを書いていたのが、私の中で引つかかっている。

自分なりの感じ方や表現は、成長するにつれて、見限られていくのか。それとも使い分けながら持ち続けられていくのか。せめて後者であつて欲しいと願う。

春の石は、オタマジャクシの水槽の中で今も活躍している。(田)

幼児の教育

第九十五巻 第九号

(一九九六年九月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成八年九月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五―二一―

株式会社 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一―四一九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―一六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレール館にお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。